

第5講 学習目標のデザイン

【学習到達目標】

- ・ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明できる。
- ・ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明できる。
- ・明確な学習目標について、具体的な単元において設定できる。

1. 学習目標の明確化

よい授業の条件は、まず、学習者が目標を十分に達成できることである。そこで、第一に、学習目標を適切かつ明確に設定することが必要となる。

岐阜女子大学の吉村希至氏は、前述の「教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザイン」の中で、学習目標について次のように述べている。

学習目標とは、学習者が、身に付けること、できるようになること、わかることなどの教師のねらいを、具体的な形で表し、身に付けたか、できるようになったか、わかったかを判断できるように書かれたものである。学習目標は、IDの初めの段階で明確に設定しておくこと、授業の展開も、「出口」もはっきりする。学習目標を明確にすると、その目標が適切なかどうか、学習者にとって達成可能なかどうかなどの検討も可能になってくる。授業設計は、全ての学習者が目標を実現できるように、それに向けた計画を立てることである。学習目標が不明確であると、何を目指してどのように設計してよいかが不明となる。また、学習目標は、どの教師にも伝わるはっきりとした形で表すことが大切である。教師によって、どのような判断で学習目標が実現できたかとすることが異なっている、一人一人の学習者の見取りも曖昧になる。

ここでは、授業設計の最初の段階で行う、学習目標の明確化について説明する。明確な学習目標の設定のあり方と、授業設計の検討すべき内容について考える。



教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザイン

2. 学習目標の分類

(1) ブルームの教育目標の分類体系

授業設計をするにあたって、明確な学習目標を設定することが求められる。BS.ブルームらは、教育活動を通じて追求する学習目標を、認知的領域、情意的領域、精神的領域の3つに分類した。それに関わって、それぞれの領域のプロセスを分けてレベル分けし、学習目標の分類体系（タキソノミー）を作成した。

表 5-1 ブルームの教育目標の分類体系

評 価 Evaluation		
統 合 Synthesis	個性化 Characterization	自然化 Naturalization
分 析 Analysis	組織化 Organization	分節化 Articulation
応 用 Application	価値づけ Valuing	精密化 Precision
理 解 Comprehension	反 応 Responding	巧妙化 Manipulation
知 識 Knowledge	受け入れ Receiving	模 倣 Imitation
認知的領域	情意的領域	心的運動的領域

ブルームらの分類体系は、教師が、多様な面を持つ学習を理解するために有用な類型である。例えば、認知的領域をみると、情報を記憶することに関する知識から、新しい情報についてコミュニケーションを通して取り入れる理解、さらに、応用、分析、総合、評価と階層的に分けている。カテゴリーは、単純なものから複雑なもの、具体から抽象へと並べられ、累積的な階層を意味する。各カテゴリーにおける行動目標による具体例をあげると次のようになる。知識については、歴史で大事な出来事の年や主な人物の名前が言える。理解については、動画映像で示された出来事の短い要約が書ける。歴史的な事柄を現代状況に例えて話せる。評価するについては、2つの方法のうちどちらが問題を解決するのによりよい方法であるかを判断できる。

(2) ガニエの学習成果の5分類

ブルームのタクソノミーを拡張したのが、R.ガニエの学習成果の5分類である。ガニエの5分類は、学習目標を、言語情報、運動技能、知的技能、認知的方略、態度の5つに分類している。

表 5-2 ガニエの学習成果の5分類

言語情報	物事・名称を覚える
運動技能	体を動かして身に付ける
知的技能	ルールを理解し活用する
認知的方略	学び方を工夫する
態 度	気持ちを方向付ける

これは、学習心理学の成果に基づいたものであり、各教科や領域の学習にも応用が可能となっている。また、学習指導要領に示されている学力の3要素と対応関係があり、実際の授業設計をする上で区別して記述することが、学習目標をさらに明確にすることにつながる。ガニエの5分類と学力の3要素の関係を次に示す。

表 5-3 ガニエの5分類と学力の3要素の関係

ガニエの学習成果 の5分類		学習指導要領の3要素
言語情報	⇔	基礎的・基本的な知識・技能の習得
運動技能	⇔	知識・技能を活用して課題を解決するための思考 力・判断力・表現力
知的技能	⇔	主体的に学習に取り組む態度
認知的方略		
態度		

5分類により、学習者の行動を観察可能な行動で示したものが表 5-4 で示したような行動目標となる。学習目標を5分類で示した行動目標で考えることにより、学習目標が明確になる。これにより、学習目標に応じた適切な教え方や、評価の仕方が明らかになってくる。このことは、効果的な授業設計ができることにつながる。

表 5-4 学習目標と目標行動の関係

	学習成果	具体例	目標行動
言語 情報	名称や単語などの指定 されたものを覚える	人の体に関する英単語を書きだ すことができる	言う, 書く
運動 技能	体の一部や全体を使う 動作や行動	なわとびで2重跳びを5回以上 連続でできる	行う, 実演する
知的 技能	ルールや原理, 概念を 理解して新しい問題に 適用する	前置詞の後に置く代名詞の例を 複数挙げるができる	区別する, 選ぶ, 分類する, 例を挙 げる, つくりだす
認知的 方略	学び方や考え方を意識 して工夫・改善する	教科書を時文なりに工夫してノ ートにまとめることができる	採用する

3. 明確な学習目標を設定する

明確な学習目標を設定するにあたって、単元レベルでの学習目標で検討してみる。その際、目標分析が重要である。授業設計における目標分析は、目標を吟味し検討するために必要である。教材研究を進める中で、教科内容に精通し、もう一方で学習者の実態を把握して、学習者に学力と成長を保証する指導を展開しようとする際、不可欠のこととなる。目標分析の際は、例えば、表 5-5 に示した目標分析表を用いて、行動目標を記していく。これは、横軸に学習指導要領に示された学力の3要素の観点をおき、縦軸に学年や各単元を設けるという2次元マトリックスとした。内容に即してどのような成果をあげればよいか、各項目には、5分類による行動目標を記述していく。

表 5-5 学習目標設定のための目標分析表

	主体的に取り組む態度	思考力・判断力・表現力	基礎的・基本的な知識・技能
単元 1			
単元 2			

この単元の目標分析表をもとにした学習目標設定の流れは次のようである。

- ①学習指導要領に定められた目標を分析する。

↓

②各学年の目標及び内容を吟味し，単元の学習目標を設定する。

↓

③目標分析表を基に，観点ごとに分析して行動目標として記述する。

↓

④本時重点に置く行動目標を定め，本時の学習目標を設定する。

例えば，小学校４年社会科，単元名「特色ある地域の人々の暮らし」の目標分析を行うと表 5-6 のようになる。

表 5-6 「伝統や文化を大切に守る町」の目標分析表

	主体的に取り組む態度	思考力・判断力・表現力	基礎的・基本的な知識・技能
伝統や文化を大切に守る町	<p>①特色ある町の様子や，町づくりに努めている人々の取り組みを調べようとする。</p> <p>②保護・活用する活動について意欲を持って調べたり考えたり，まとめようとする。</p> <p>③特色ある町づくりの取組に対する誇りや愛情をもち，その発展を願う。</p>	<p>①特色ある町づくりの取組に問題意識をもち，追究している。</p> <p>②調べたことをもとに，町づくりに取り組んでいる人々の願いや努力，工夫，苦労を考え，適切にまとめることができる。</p>	<p>①特色ある町の様子や取組を言うことができる。</p> <p>②特色ある町づくりに取り組んでいる地域の人々の願いや取組，苦労などが書ける。</p> <p>③町の地図や町づくり年表を読み取ったり，ノートにまとめたりできる。</p> <p>④見学，調査したり，町の人々から聞き取り，問い合わせ調査をしたりして調べている。</p>

このような目標分析表に基づき，本時の学習目標を設定することになる。

【参考文献】

(1) 岐阜女子大学編：教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザイン

課題

1. ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明しなさい。
2. ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明しなさい。
3. 明確な学習目標について、具体的な単元において設定しなさい。



教材開発の基
礎としてのイ
ンストラクシ
ヨナルデザイ
ン